

佐藤紅緑 さとう こうろく 小説家、劇作家、俳人。明治七年七月六日青森縣生れ、昭和二十四年八月二日歿（八七歳一十九日）。本名治六。別號北柳山人、外ヶ濱人、徑東、杵臼先生、桔梗の舎、桔梗舎、無名氏、玉藻の浦人、白面子、紅縁子、紅縁山人、紅縁辻更、花紅等。弘前中學校中退。明治二十七年日本新聞社に入り、同社で正岡子規を知りて俳句を學び、暫時俳人として活動も、聽て新派の脚本を書き、併せて小説の筆を執つて文壇に進出。昭和八入り「あゝ玉杯、花のけく」以下一聯の少年少女小説で一世を風靡。詩人サトウ・ハチロー、作家法藤愛子の父。『佐藤紅緑全集』全十六卷十七冊（昭和十一年十一月〜二十二年三月エ社）刊。

著譯書『從軍記者 決死隊』（明治二十四年十一月八日新聲社）、『俳句小史』（明治二十五年二月二十日内外出版協會）、『俳句新註』（明治二十五年六月）『俳句新叢』（明治二十五年九月八日新聲社）『俳句新叢』（二十五年九月八日新聲社）『芭蕉論稿』（明治二十六年八月）『二十五白金澤堂書籍株式會社』『文藝叢書』（『寫生文集』（合著・四方太編、明治二十六年九月十八日俳書堂）、『俳諧紅縁子』（明治二十七年二月一日有朋館）、『無村俳句評釋』（明治二十七年二月九日大響館）『俳句入門叢書』（ユナン、ドネル作）『俳諧小説老將物語』（譯、明治二十七年七月）『二十五白金澤堂書籍株式會社）、『俳句新註』（明治二十九年二月）『二十日讀賣新聞社）、『むらさ雲』（合著・大河内



月・笹川龜風、洋・樋口龍峽編、明治四十二年一月五日高有倫堂）、木村水滸選『二聖俳句選』（註、明治四十二年九月十七日新潮社）、コイブセン全集（卷の一）

(柳川春葉共譯、明治四十二年二月五日杉本梁江堂)、『決艶録』(明治四十五年一月一日新潮社)、『潮』(大正一年一月十五日新潮社)、『礎・前編』(大正二年六月二十七日金屋文淵堂)、『雲の響』(大正二年七月十七日新潮社)、『紅縁柳本集』(大正二年八月二日池田喜江刊、荻屋出版部發賣)、『櫻の家』全二冊(前編・大正六年十一月十八日、後編・七年五月十八日羊誠堂書店)、『新しき俳句と其作法』(内藤鳴雪共著、大正十二年八月二十八日南天堂出版部)、『おん玉杯の花うけこ』(昭和二年四月二日大日本雄辯會講談社)、戯曲『キリスト』(昭和二年五月五日新潮社)、『戯曲『キリスト』』(就くの申分) (昭和二年十一月二十一日依堂丈夫編刊)、『佐藤紅縁篇』(昭和二年九月一日新潮社)、『富士六題す』(昭和五年九月十日大日本雄辯會講談社『評判小説』)、『野の叫ぶもの』(昭和六年七月十二日新潮社)、『新たの芽ぐももの』(昭和七年六月十二日新潮社)、『親鳩子鳩』(昭和十年一月一日大日本雄辯會講談社)、『絹の泥靴』(昭和十一年二月二十日新潮社)、『昭長篇小説全集』、『英雄群像』(昭和十七年十月二十日博文館)、小説『花咲く丘』(昭和二十二年一月十五日まひる書房『少年少女文庫撰』)、『栗竹桃の花咲けば』(昭和二十二年五月二十五日尚文館)、『羊人半獸』(昭和二十二年九月十日東方社)、『樂園の扉』(昭和二十二年十月一日鷺ノ宮書房)、『野の叫ぶもの』(昭和二十二年十月十日鷺ノ宮書房)、『幸福ものばた』(内題『幸福物語』) (昭和二十二年十一月一日都書院)、『鳩の家』(上巻)『(昭和二十四年五月二十日まひる書房)等。

文獻、佐藤愛子著『花はくればこゝろ』小説佐藤之縁』(昭和四十二年)

二月十日『百講談社』等。